

[ホーム](#) > [フォーラム/セミナーの報告](#) > [フォーラム](#)

## 第1回医療安全やまがたフォーラム報告

### 参加者の高い評価と期待を受けて今後の活動継続へ

平成22年11月11日(木)15時から「第1回医療安全やまがたフォーラム」を山形県土地改良会館で開催した。本フォーラムは、医療安全全国共同行動に連動して本県でも行動を展開するため、山形県医師会、山形県歯科医師会、山形県薬剤師会、山形県看護協会及び山形県臨床工学技士会の5団体が合同して企画したものである。

開会に当たり、5団体を代表して山形県医師会の有海躬行会長から「私たち医療関係者は、日頃から安全で良質医療の提供を心掛けているが、医療事故は決して少なくはない。医療行為自体は本質的に危険を伴うもので、医療関係者も患者さんも理解しあう必要がある。本日のフォーラムの成果が医療の現場で具体的な行動に活用され、医療安全が更に進展することを期待する。」との挨拶があった。

主催の5団体代表の紹介の後、基調講演として、東北大学大学院医学系研究科教授で、共同行動企画委員長としてご活躍されている上原鳴夫先生から、「医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ” – みんなの協力で1万人の命を守ろう」と題して約1時間の講演が行われた。講演では、医療のやり方を変え、システムを改善することで有害事象をなくし、「患者さんの安全を守る」取り組みこそが重要であるとして、8つの行動目標についてそれぞれ具体的な取り組み目標やシステムづくりについて説明があった。加えて、9つ目の目標として「安全な手術」の実践に取り組む必要があると強調した。

シンポジウムでは、「山形県における医療安全の取り組みと今後の課題」をテーマに参加団体代表から発表が行われた。県医師会からは県立中央病院の菊地惇副院長から「医療安全に関する県立病院の取り組み」について、県歯科医師会からは大江政彦同常務理事から「山形県歯科医師会の取り組み “医療安全管理マニュアル”」について、県薬剤師会からは須藤悦衛同リスクマネジメント委員会委員から「保健薬局ヒヤリ・ハット事例報告」について、県看護協会からは本橋芙美子山形市立病院済生館医療安全室専従看護師から「県民の皆様の立場に立って取り組む当院の医療安全」について、県臨床工学技士会からは、本間久統同副会長・安全管理委員長から「山形県臨床工学技士会の医療安全への取り組み」について発表がなされた。

フォーラムには、各団体の会員の他、医院の従業員や行政関係者を併せて120名が参加し、特別講演の講師や各シンピジストとの質疑応答が活発に行われ、初回としては大変有意義な会となった。



山形県医師会 有海躬行会長



上原鳴夫共同行動企画委員長